



橋場優香さん



JCI...国際青年会議所。各国の青年会議所と連携し、世界を舞台にさまざまな活動を展開。

貧困をなくすために 私たちができること

〜2013年度少女国連大使・橋場優香さん〜

2015年までに世界の貧困を半減させることを目指す、国連の「ミレニアム開発目標」を学び、啓発することを目的に、

日本青年会議所(※)の主催で派遣されている少年少女国連大使。2013年度の大使には全国から21人の中学生が選ばれ、海老名からも今泉在住の橋場優香さん(13)が、大使の一員として、7月22日〜28日の間

ニューヨーク研修に参加しました。大使として国連本部でプレゼンテーションも行った橋場さんに、話を聞きました。

※日本青年会議所(JCI)：青年の真摯な情熱を結集し、社会貢献することを目的に組織された団体。20〜40歳の年齢制限あり。

世界の貧困をなくすために大切だと感じたことは?
いろいろな団体の話を聞いて、募金活動やキャップ集めも大事だけれど、周りの人に世界の現状を伝えて、知ってもらうことが大切だと思いました。ニューヨークに行く前は、自

分と国連は遠いものだと思っていたけれど、ミレニアム開発目標の達成状況などを聞いたなら、自分にも関係している部分があったので、みんなが少しずつできることをやっていけば、ミレニアム開発目標も達成できるんじゃないかと思いました。

自分は幸せなんだと感じた?

感じました。日本では、ご飯も清潔で蛇口からは水も出ると、トイレも水洗です。けれど、世界には特に衛生面で戸惑ってしまう場面がまだまだたくさんあって、改めて私たちが当たり前じゃない人たちが、たくさんいることを感じました。



内野市長にニューヨーク研修の報告をする橋場さんと塩脇理事長(左)、梅田専務理事(右)

国連本部でプレゼンテーションをした内容は?

私たちは5人の班で、特にマラリアやエイズなどの医療関係について発表しました。病院が少ないこと、薬がいき渡っていないこと、医者の数が少ないこと、の3点を大きな原因としてあげ、その解決策として、保健活動や土地の開拓、人材派遣などをするので、幸せな人が増えるようにしようというプロジェクトをたてて発表しました。

プレゼンテーション中の様子



一番驚いたことって?

同じ大使としてナイジェリアから来た二人は、実際にマラリアにかかったことがあるそうです。マラリアは強い病気だと思っていました。薬を手に入れたので2日で治ったと聞き、驚きました。

ほかにも、国連本部のセキュリティが厳しいことにもびっくりしました。また、建造物ひとつひとつに意味が込められていると聞いて、とても勉強になりました。



将来の夢は、医療関係の仕事につくことと、目を輝かせながら話してくれた橋場さん。今後も、学校の文化祭などでの発表が控えているそうです。一緒に研修に参加した仲間の大使たちとは、SNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)やメールでのやりとりで交流しているとのこと。世界中の子どもたちが笑顔でいるために、この経験を糧に海老名から世界へ羽ばたいていってほしいと思います。



2013年度の少年少女国連大使。ニューヨークの国連本部にて。

国連本部でのプレゼンテーションを現地でも聞いた、海老名青年会議所の塩脇理事長と梅田専務理事に聞きました。

◆塩脇理事長

若いうちに世界を見ることはとても大切だと感じました。2015年までの目標達成に向け、青年会議所も社会人としてどう取り組むのか、子ども達を感じてきたことは大人もやらないといけないと思います。発展途上国では、上下水道も揃っていないし、女性が大事にされていないため、出産環境もひどいそうです。女性をどう守っていくかが、大人としての最大のテーマだと思います。そのためにも、ハード面の整備も必要不可欠ですが、教育も重要なテーマだと感じました。

◆梅田専務理事

大使たちの発表は堂々としたもので、会場は総立ちの拍手に包まれていました。橋場さんは、応募選考時の作文でも立派なものを書いていたので、今回の大使にも自信を持って推薦できました。